

● REC3000



男のシンクロ!?

# Order bOys 2

水泳部員×監督

00:00:5

00:00:23:01

## 設定

18 禁小説です。

大学水泳部。現監督になってから始まった水泳部による男のシンクロ公演。観客の中には監督指定のもっこり強調水着で踊る部員達を見定める猛獣のような男たちの姿。その公演には部員の品評会という目的があった。

人気の部員を監督が媚薬を使いながら時間をかけて調教し、精液風呂につけて精子に慣れさせ、客に差し出していく……。

脱糞、飲尿、後輩に晒し、ストリップ、乳首責め、待ち合わせ責め、輪○、アヘ鳴き等

16000 字程度の作品です。画像のみ AI で作成しています。

## 登場人物

島田孝介(しまだ こうすけ) 21 歳 3 年

水泳部部員。思ったことは口にしてしまう実直型。監督に脅迫されセックスを強要され、精液風呂にも浸かってしまい、言いなりの奴隷に。

石巻亮太(いしまき りょうた) 22 歳 4 年

水泳部部長。責任感が強く、自分に厳しいが後輩には優しく人望がある。

福士壮一(ふくし そういち) 55 歳

水泳部監督。OB。粘着質でグチグチと説教をするタイプ。部員を調教し、

売りをさせている。監督としての指導力には定評がある。

坂下一生(さかした いっせい) 20 歳 2 年

先輩にもタメ語をつかったり、後輩をパシッたりと問題のある部員。監督とは気があう。

## 管理

監督が何をしているのか……孝介は、その異常さを誰より知っていた。  
しかし、それを誰にも話すことはできなかった。

脅されているから、という理由は確かにある。監督の目を思い出すだけで、  
背筋が冷たくなる。

だが、それだけではない。監督が与えてくれる、あの白く濁った液体の風呂。  
一度体験したあの日から、あの中での快楽を忘れられない。

まるで、重たい現実が一瞬だけ遠のくような、思考の雑音が消えるようなそん  
な感覚……。

「最低だ」と心の中で思う。監督のやっていることは明らかにおかしい。従う自  
分もまた、間違っている。それでも、体は抵抗しなかった。いや、正確には抵抗  
できなかった。

監督の“指導”を思い浮かべると、怒号や命令すら、なぜか心の奥で甘く響く  
ような錯覚すら覚える。自分でも理解できない。ただ、わかっている。もう普通  
には戻れない。監督の支配から逃げるには、あまりにも深く踏み込んでしまっ  
た……。

毎日 T バックを履く、バイズを常にいれておく、そういった当初のルールにく  
わえ、監督の決めたルールは増えていった。

- ・監督のことはご主人様と呼ぶ。
- ・飲料は監督の与えたもののみ飲む。
- ・T バックに限らず着用する衣類は毎日監督の指示に従う。

・ペットカメラを自分の部屋に設置し、家にいる時の様子をさらす。

あげたら切りがない……。

「今日はまだ排便していないんだろう？浣腸してやるから尻を出せ」

「はい……」

これもその一つ……排便も監督の許可制で、家でするときはその様子を撮影し、大学にいるときは基本的に監督の前で行う。

全裸で椅子の上で両足を持ちながら尻をさらしている孝介のアナルからバイブを取り出すと、その穴に浣腸液を入れていく……。

「ぐ……うう……ッ……あ……」

10 分経過しても出すことは許可されず、孝介は脂汗をかいて苦しんでいる。

「ごしゅじん……さま……おねがいします……どうか出させてください……お願いしますうう……あゝッ……」

「ペニスをビクつかせて、本当は気持ちいいんだろう？俺に排泄まで管理されていることが……」

「ぐう……でちゃいます……お願いします……ご主人様……」

「出したいならいつもみたいにちゃんと言えよ……自分がどんな変態かを、はははは」

「あゝッ…俺は……ごしゅじんさまに……排便を管理されて喜ぶ変態ド M

です……ぐぎい……ご主人様に……うんこブリブリ出すところ見られたいです……お願いします……うう……はあ……はあ……どうか俺の脱糞みて下さい……」

「仕様がないうつだな……そんなに恥ずかしい姿を見られたいのか……出していいぞ」

(くるしい……苦しいのに……なんで勃起しているんだ……うう……)

「ありがとうございます……うう…。水泳部 3 年島田孝介の脱糞どうぞご覧ください……ぐふう……うう……出る……うう……」

ぶりっ……ぶりぶりぶり……ぶりゅっぶりゅりゅ……ぶうぶりい～～～！

(ああ……俺の全部を見られている……また……こんな恥ずかしい姿を……また……撮られている……うう……あふっ……♡)

孝介のきれいなピンク色のアナルから茶色い物体が次々とひねり出されてくる。その孝介の整った顔立ちからは想像できないような汚物が、次から次へと下に設置されたタライの中に入っていく。

孝介はその痴態をさらすと、うっとりとした表情で涙を流している。自分の見られてはいけない姿を監督に握られることにたまらなく興奮している。

「こんな姿見られて興奮するとか、お前もいよいよ本物の変態の仲間入りだな。普通はこんなことで興奮しないぞ。お前はド M でど変態だったんだな、くく